

男女平等の実現を目指して

赤羽根中学校3年 松本唯花

前に、ニュースで妊娠した女性が職場で上司から嫌がらせを受ける「マタニティハラスメント」が取り上げられているのを見たことがある。また、私たちの家庭の中では決まって女性ばかりが育児や家事を任されている。

今、日本には男女共同参画社会基本法というものがあるが、男女平等を謳っているとはいえども、このように「男は仕事、女は家庭」の意識がまだ深く根付いているように感じる。

何故、男女不平等のこの意識が拭えないのか。女性は出産のために仕事を一旦抜けるため大きな仕事は任せられないから、男性の方が色々と力があるから、などと様々な理由があると思う。だが、一番の理由は「行動」にある。最近では、頭の中では否定的に考える人が増えている。しかし、実際のところ行動には表せているのだろうか。女性が仕事をし、その上家事もこなしている、或いは男性が家事を分担している場合においても、手伝ってやっているんだ、という意識でいないだろうか。

男女共同参画の考え方を浸透させるために、私たちにできることは何だろうか。

第一に、私たち一人一人が自らの意識を変えていかなければならない。「男性、女性はこうあるべきだ」という固定観念に囚われず、自分らしく生きることのできる社会を創っていくことが必要だ。

第二に、男女平等への呼びかけ、政策を発信することだ。私は授業で習うまで男女共同参画について知らなかったし、聞いたこともなかった。私のような人もまだ多くいると思う。そんな人たちのためにも呼びかけをすることは大切である。

男女共同参画で、女性のみならず男性の生き方も広げ、本当に豊かな社会を創りたい。

私もまた何かに偏見を持ち、誰かを差別してしまう人間の一人だ。これを機に他の差別にも目を向けたい。そして、ゆくゆくは、今ある全ての差別がなくなっってほしいと思う。